ボランティアOSAKA

第7号

'96／AUTUMN

●発行●
(福)大阪府社会福祉協議会
大阪府ボランティアセンター

特集

REPORT

第5回 全国ボランティア フェスティバル 大阪

連帯・手応えもしっかりと
進めボランティア・ロード
広がる出会い、ふれあい、感動の輪！

第5回 全国ボランティアフェスティバル 大阪

「第5回全国ボランティアフェスティバル大阪」が9月21・22日の2日間、OBP（大阪ビジネスパーク）・大阪城ホールを中心に盛大に開催されました。

台風の影響で、バザーや模擬店、フリーマーケット、またステージでの楽しい催しが計画されていた「屋外プラザ」は中止になったものの、全国から約8万人が集まり、質量ともこれまでにない規模の大会となりました。

21日、大阪城ホールで開かれた開会式典は、今大会の実行委員会・山下俊彦会長（大阪府社会福祉協議会会長）の開会宣言で開幕。大阪府知事、大阪市長の挨拶などに続いて、清子内親王殿下から「この大会が、自分も何かをしたいと思っている人の活動のきっかけとなるように願っています」とのお言葉を頂戴しました。

続いて、ボランティア功労者、作文コンクールの入賞者の表彰があり、駒井信義・フェスティバル実行委員会副会長の閉会宣言で式典は終了。

引き続き第2部に移り、盲学校卒業者を中心に結成され、いまでは人気のロックバンドとして活躍する「シャンテ」の皆さんがパワフルな演奏でステージを盛り上げました。続いて森進一さん、立原啓裕さんにシャンテも加わり、衛生中継で、会場と阪神・淡路大震災の被災者が住む豊中市の仮設住宅とを結んだフリートーク。そしてフィナーレではシャンテが歌う「花」を、会場の参加者も一緒に大合唱。リフレインされる歌詞を手話を交えて歌う参加者の中には、感動の涙を流す人も少なくありませんでした。そして最後には、参加者一人ひとりがボランティアへの熱い思いを紙ヒコーキに託してメッセージ交換。それぞれがそれぞれのメッセージを受取り、会場は文字通り、全国のボランティアによる網の目のネットワークが出来上がったかのよう。こうして、2日間の催しは、華やかな中にも感動の渦で、その幕を開けました。

開会式

大阪アピール

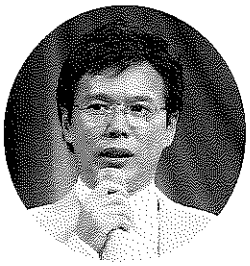
私たちは、今、"新発見　ボランティアロード　なにわから"をテーマに、第5回全国ボランティアフェスティバル大阪に集いました。

ボランティア活動へ参加することで、さまざまな人とのであいやふれあい、多様性を認め合う豊かな心、またボランティアから始まる「何か」を得ることができると思います。今日ここにお集まりの皆様も、このボランティアフェスティバル大阪で、そんな思いを持たれたのではないでしょうか。今、なにわからボランティアの輪がさらに大きく広がります。全国で活動するボランティアへ　ボランティア活動に関心を持つ人たちへ、そして全ての人たちへこの思いとパワーを発信しましょう。

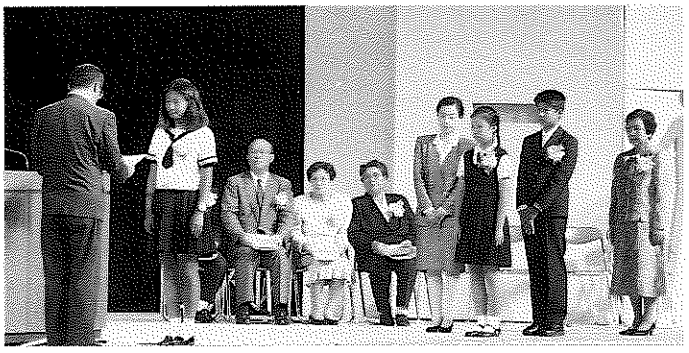
いろんなボランティアがあるんやな　自分もボランティアしてみよか！様々なボランティアロードを　これからも　ワクワク　ドキドキ　しながら歩み続けたいと思います。

平成8年9月22日　第5回全国ボランティアフェスティバル大阪　参加者一同

げんきいっぱいの踊りで開会式を盛り上げてくれた、保育所・旭ケ丘学園の子どもたち


ネットワークトークでは森進一さんも出演

屋内プラザに展示されたバリアフリー商品をご覧になる清子内親王殿下


式典では厚生大臣表彰、作文コンクール表彰が行われました

セイル・トレーニングに参加して

参加者の感想

肥田木健二（救世軍希望館 14才）

先日のセイル・トレーニング、とても楽しかったです。天候が悪くて大丈夫なのかなと思いましたが、無事出航できました。しかし、海がシケていて船がよく揺れました。そのため、まわりの皆は気分が悪くなってしまったようですが僕は平気でした。

船の上では皆ニックネームで呼ぶのです。僕はなかなか決めることができずに困りました。結局「キムタク」にしました。しかし、そう呼ばれると、とても恥ずかしかったです。今度はもっと長い期間のトレーニングに参加したいです。本当にどうもありがとうございました。

宮下　希望（公徳学園 12才）

僕は船を初めて見るので、どんな船だろうと思っていました。見たら、すごく大きいなと感じました。さあ、いよいよ出発です。「ほ」が上がりました。みんなで力を出し合いました。風がきつかったけど、雨も降ることなく一日過ごせたと思います。昼食もおいしかったです。友達もたくさんできて、うれしい一日でした。ひも遊びでたくさんの手品、とても楽しかったです。僕はこの船に乗っていたボランティアの人にもう一度会いたいと思いました。また招待して下さい。いい思い出をありがとうございました。

大会では大阪市港湾局の協力を得て、養護施設の子どもたちを大型帆船「あこがれ」のセールトレーニングに招待しました

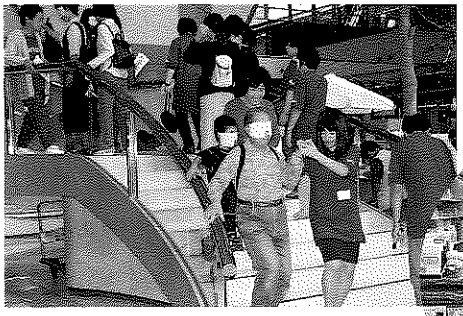
屋内プラザ

シャンテの皆さんのライブ＆トークショー

パントマイムに笑いと拍手が

チンドン屋さんもステージでチンチキチン！

2日間、多彩な催しがくり広げられた屋内プラザのステージ



会場で高齢者を疑似体験する参加者のみなさん

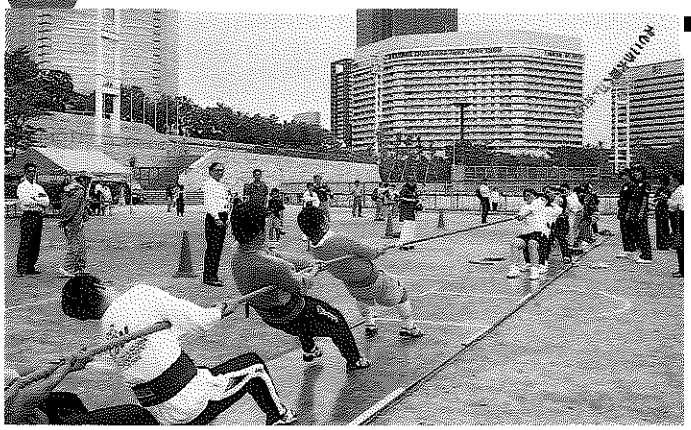
インスタントシニア体験は若者に大人気

盲導犬と一緒に参加された方も

フィランソロピーステージは多勢の参加者で盛り上がりました

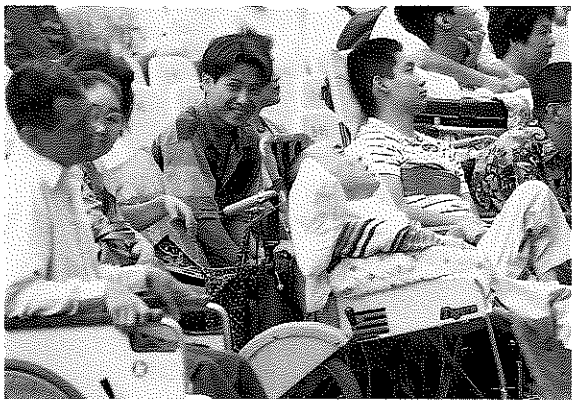
松下電器のみなさんも自社のフィランソロピー活動を紹介

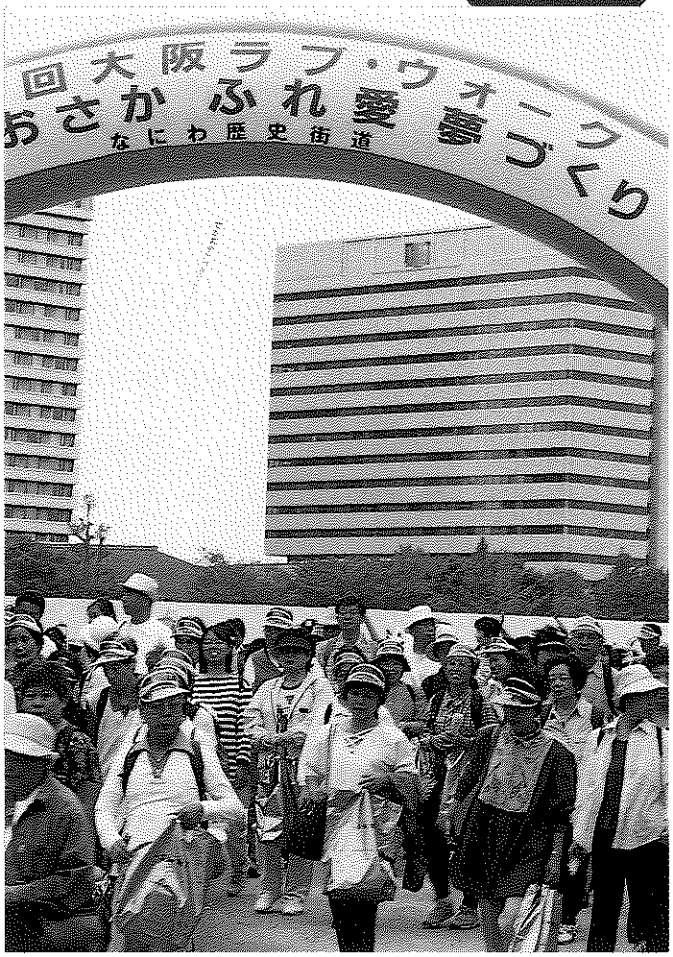
屋外の催し



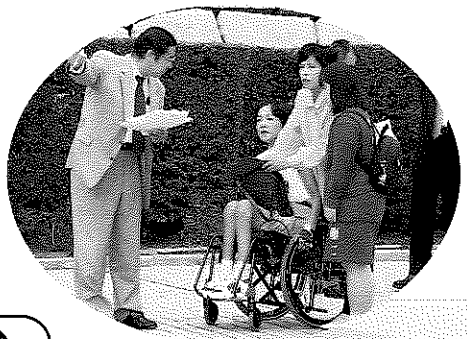
綱引き大会でオーエス・オーエス！

上田正樹さん、木村充揮さんらが出演したフィランソロピーコンサートには関西を中心に活動するプロ・アマ25組も出演





歩くチャリティ運動「ラブウォーク」に参加する皆さん。大阪城公園・太陽の広場から、2時間の史跡巡りに元気よくスタート！



広い会場を案内係のボランティアが大活躍

一つ空の下でのんびりと

ボランティア酒場の運営に携わって

スタッフの感想

西村　忠和（大阪府社会福祉協議会 職員）

ボランティア酒場は全国各地から約200人のボランティアが集まり、6会場に分かれて交流しました。この酒場は、人情あふれる庶民の街・大阪で、気軽に交流を深めてもらうことを目的としたもの。17歳から80歳まで幅広い年齢層の参加となりました。

酒場では、「こんな活動をしています」との自己紹介から始まりましたが、「頑張れ！」の声援や、「私が最年少のボランティア」との紹介に拍手が沸いたり、出身地の踊りを披露する会場も出るなど、大きく盛り上がりました。初めての「新しい出会い」に心が和んだひとときでした。

OBP内飲食店の協力を得た「ボランティア酒場」も大勢の参加者で賑わいました

地域のボランティア活動を総結集

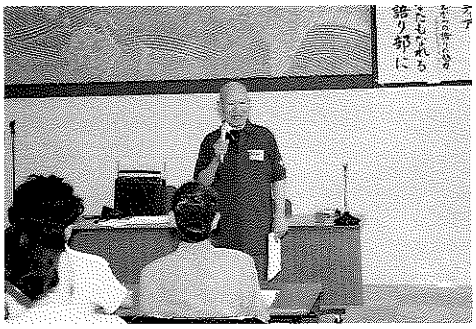
さまざまな地域で繰り広げられているボランティア活動の経験を持ち寄り、交流・情報交換を行うことを目的に、イベントと並行して開催された44の「分科会（テーマ別の集い）・講座」。大阪はもとより全国各地から4300人が参加し、ボランティア活動のあり方、活動内容や当面の課題などについて、活発に意見交換が行われました。

華麗な衣装に身を包み、エキサイトする八老劇団。「お笑い・演芸V」分科会では笑って楽しみ、元気の"もと"を創出

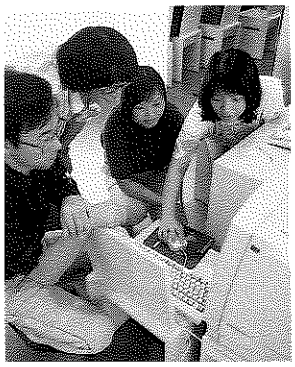
移送サービスのあり方やボランティアが果たす役割についてディスカッションする「移送V」分科会

本づくり、雑誌づくりのコツを公開する「機関紙魅力アップ講座」

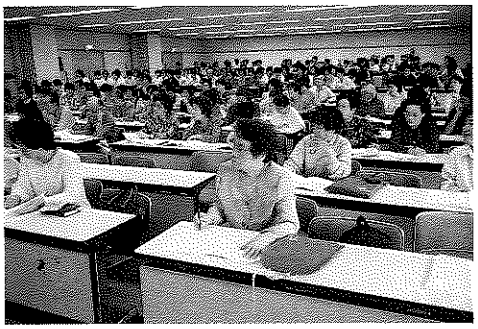
「自助具・介護用品製作V」分科会では、門真の「若葉会」が手作りウエアを披露



心に響く語りの魅力を紹介する「お話V」分科会



最新のコンピュータに触れながらインターネット講座を展開する「情報V②」分科会



「食事サービスV」の分科会は、会場の後方まで参加者でいっぱいに

今後の活動に向け、積極的に意見交換

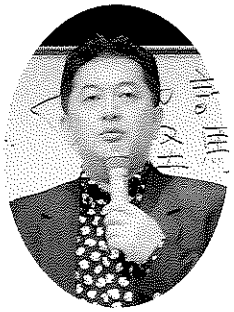
講師やボランティア活動の報告者の話に熱心に耳を傾け、今後に向けてのよりよい方向を探る人々。44の分科会・講座は、どこも参加者たちが積極的に発言する姿が見られ、会場は熱気に包まれていました。

例えば、「食事サービスV（ボランティア）」には195名が参加。安否確認も兼ね、日曜祝日を除く毎夕、配食サービスを行っているコープ神戸などがボランティアの活動内容を発表しました。会場からは、この夏、病原性大腸菌O-157が大きな騒ぎになっただけに、衛生管理についての質問が…。その他、資金の確保について助言を求める声も出ていました。

「サロン活動」の分科会には障害者も多数参加。語り口調も軽快な助言者・牧口一二さんの話で会場の雰囲気はグッと盛り上がり、発言も活発に。まさに「心のバリアフリー」を実感した分科会でした。

その他、「シニアV」の分科会では、豊富な人生経験を生かして活躍する元気なシニアたちの活動をスライドや作品展示などを通して紹介。「お笑い・演芸V」では、平均年齢75歳という八尾市の八老劇団のミュージカルや、福団治亭くいだおれ氏の手話落語などの披露も。また、「施設V」の分科会では、「ボランティアと福祉施設とは、本来、対等・平等・互恵の関係にある。施設の補助労働をするのが主な活動ではない」といった意見や、「ボランティアならではの個性や自由度を生かし、施設ではもっとファッショナブルな格好で活動してみては…」といった提案も出ていました。

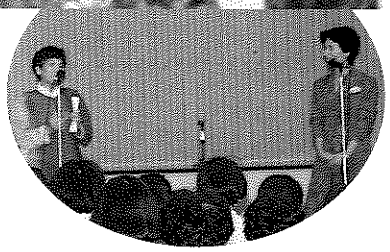
なお、企業におけるボランティア



NHKボランティアフォーラムでは、作家の田中康夫さんが阪神・淡路大震災でのボランティア体験を報告

和歌山県から参加した上富田町ボランティア連絡協議会のみなさん

朗読ボランティアの現場をコントで演じたり、グループ別にフリートーキングを行ったり…。ボランティアが抱える問題点や課題をさまざまな形で浮き彫りにし、今後の活動の方向を模索



閉会式では、大会フラックが山下俊彦会長から来年の開催地・山口県社協の北村義人会長へ手渡されました

「施設の補助労働をするためにボランティアがあるのではない」というメッセージに大きな共感と拍手が…（「施設V」分科会）

映画「ガイアシンフォニー」を観て

参加者の感想

高田　弘美（高石市 27才）

この映画を見る直前に「百匹目の猿」を読み終えたこともあり、映画を見てすごく感じるものがありました。地球の痛みを分かることが大切で、共に生きている意味をもっと理解していかなければと思います。多くの人にこの映画の素晴らしさを伝えたいと思います。小さなことから始め、いつか大きくなることを信じて…。

新開　惟展（豊中市 60才）

とても素晴らしい映画でした。生態系とか、食物連鎖とか、グローバリズムとか、人間は他の生物と関係を絶っては生きていけないということは、ある程度知ってはいましたが、この映画を見て少しは実感できたように思います。

高草　俊和（大阪市 42才）

素晴らしい映画でした。話には聞いていましたが、もっと早く観ておけば良かったと思いました。映像も素晴らしいものでしたが、なによりも根底に流れている「心」がいい。今後の貴重な“財産”にします。

大会では協賛事業として「ガイアシンフォニー」の上映会が催されました

活動の広がりを反映し、「企業・労組ボランティア」の分科会も開かれました。事例報告では日本IBM・日本電装・大阪ガスが、それぞれの取り組みを発表。参加者からは、リストラが進むなかボランティア活動を行うことについて不安の声があがる一方、「ボランティアは本来自分の余暇を利用して行うものであり、ボランティア休職制度はなじまないのではないか」といった意見や、「社員に対するボランティア活動支援と企業の社会貢献は分けて考えるべきだ」といった意見が出され、白熱した論議が展開されました。

ところで、44の分科会の会場となった各会議室は、OBP開発協議会の構成企業などの協力により提供されたもの。そんな点にも、今回のボラフェスのユニークさ、大きさ、そして素晴らしさが感じられる、といえるのではないでしょうか。

全国ボランティアフェスティバルを振り返って

2日間で参加人員延べ8万人を超えるなど、規模・内容ともに画期的な催しになった「第5回全国ボランティアフェスティバル大阪」。とくに、大阪府社協・市社協・ボランティア協会（以下ボラ協）・府共同募金会・日赤府支部・大阪府・大阪市の関係7団体が協力しあって企画・準備を進めたことは、今後の取り組みを探る上でも、大いに注目すべきことだといえます。今回の取り組みを単に一過性の催しで終わらせてしまうのではなく、未来に生かす「財産」にしたい…。そんな思いから、ここでは、企画・準備段階からさまざまな形で催しの推進にあたってこられた皆さんにお集まりいただき、フェスティバルを振り返りながら、その評価点・反省点、今後に向けての課題などについて話し合っていただきました。

出席者

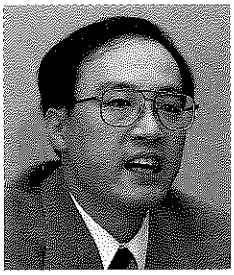
- ●森本　　裕さん（大阪府福祉部福祉政策課　ボランティア活動推進係長）
- ●木村　利雄さん（大阪市民生局　総務部調査課　主査）
- ●脇坂　博史さん（大阪市社会福祉協議会　地域福祉推進室　福祉部福祉課）
- ●樋口　素行さん（日本赤十字社大阪府支部　事業部振興課　広報係長）
- ●木村ちさとさん（大阪府共同募金会　事務局次長）
- ●名賀　　亨さん（大阪ボランティア協会　事務局次長）
- ●田尻　佳史さん（大阪ボランティア協会）
- ●山嵜　明彦　（大阪府社会福祉協議会　ボランティア振興課長）
- ●青木美知子　（大阪府社会福祉協議会　ボランティア振興課長補佐）
- ●司会：『ボランティアおおさか』編集部

過去の大会の真似をしないで、大阪らしさを出そう！

――今年のボラフェス（全国ボランティアフェスティバル）は、府社協・市社協・ボラ協・大阪府・大阪市・日赤大阪支部・大阪府共同募金会の7つの幹事団体をはじめとする53団体が実行員会を形成し、企画・運営を進めるなど、過去4回の大会とは異なる画期的な点がいくつか表われました。大会を振り返るにあたって、まず事務局を担われた山嵜課長から口火を切っていただけますか。

山嵜　兵庫・福井・岩手・長野で行われた過去4回の大会は、それぞれの県と県社協の主導で進められてきた感がありました。しかし今年の大阪大会は、初めて大都市で行われることもあって、当地での開催が正式に決まった昨年春の段階から、府と府社協だけでなく、市をはじめ多くの機関に協力を呼びかけていった。その結果、非常に大きな実行委員会が組織され、その傘下・関連の団体も53団体…と、きわめてビッグな規模になりました。この、主催者側の規模の大きさは特筆すべきでしょう。また、経済団体をはじめ、多くの企業・労組などの協力も得られ、大会自体に非常な活気と多彩なメニューを生み出すことができました。オプショナル企画にしても、今までは閉会後に実施していたのですが、今回は2日間の催しと並行して実施。総予算も、過去の大会に比べ、大阪大会は約1・5倍に。参加人員も過去の約6万人から、今年は延べ8万人に増加しました。あらためて関係諸機関に感謝しているところです。

森本　それと大阪色というか、かなり我々の現地・現場サイドが企画・運営面で主導させていただいた…という印象がありますね。ボランティアのフェスティバルなのだから、できるだけ官製・中央主導ではなく、いい意味でローカル色を出せた、というか。


森本 裕さん

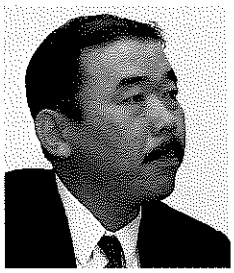
そのことと関連することですが、府や市といった地方行政（機関）も、基本的には「他の5団体と同格だ、またそうあるべきだ」という意識があった。その意味からも、ありがちな行政主導色がなかったのも良かったと思っています。

青木　しかし7団体ということで、最初は意思疎通が大変でしたよ（笑）。でも、森本さんがおっしゃるように「官」主導によるトップダウン方式でなく、「下から上へ」の「ボトムアップ方式で企画・準備を進めていこう」という点と、「過去の大会の真似をしないで、大阪らしさを出そう」という点については、基本計画の段階で長い時間をかけて各団体の合意を図ってきました。そして、この部分で一致できたからこそ、それぞれの団体の機動性と自主性を生かしながら、レベルの高い催しが展開できたのだと思うんです。

諸団体のネットワークを構築できたのは大きな財産

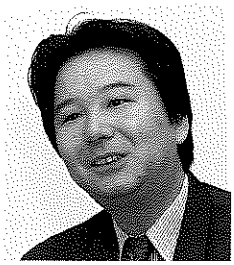
――なるほど。では、この質量ともに過去の大会を凌駕する大会となった大阪大会を、もう少し具体的、詳細に振り返っていただきたいと思います。つまりは、各団体がこの催しをどんなふうに総括しておられるのか…。担当されたお仕事も含め、お話しいただけますか。

名賀　ボランティア協会では、事務局本部に職員を出向させて運営に協力するほか、当日はボランティア協会スタッフのコーディネートや15の分科会・講座などの進行を担当してきました。総括ということでは、いくつかポイントがあると思うのですが、まず、在阪のさまざまな団体との連携が図


名賀 亨さん

れた…という点では○、全国各地のボランティアへの啓発・交流については△、大阪のボランティアの人たちとの協力・協働という面では、主催者側が十分にコーディネートできなかったという点で、残念ながら×かな…と思っているんです。全体的には△というところでしょうか。これらを柱として、今後は細かい部分の総括をしていく必要があると考えています。ともあれ、大阪の諸団体が連携したという点で、ネットワークの通気性が随分よくなりましたね。グッと距離が近付き、言いたいことが言えるようになった。また、NPOである我々に対して一定の評価もしていただけたと思っています。

樋口　日赤では、開会式の受付および屋外プラザの日赤コーナー、分科会の青少年赤十字ボランティアなどを担当しました。連携の悪さもないではなかったが、寄り合い所帯の中で、全体的にはスムーズにいったほうではないかと思いますね。


樋口 素行さん

木村(ち)　共同募金会は、屋外プラザの共同募金コーナーと寄付のボランティアの分科会を担当しました。本年は共同募金運動発足50周年の記念の年でもあり、その一環事業としてもボラフェスには力を入れました。私どもでは、共同募金に寄付するのも、募金を集めるのも、「ボランティア」と位置付けているわけですが、今回、ボラフェスに推進団体として参加することにより、今後、大阪のボランティアの集いなどにも参加していける、よい機会になったのではないかと思っています。

ただ、屋外プラザが中止となったのは痛かったですね。50周年記念のからみもあり、暦年のポスターや募金風景の写真などを2張のテントに狭しとばかりに準備したのですが…。とくに、手作り赤い羽根ブーメラン教室。これは赤い羽根に託された真心が飛んで皆に愛を分かち、大きな喜びとなって、また自分のところに帰ってくる（MANY HAPPY RETURNS）という共同募金の趣旨にぴったりのもので、ブーメラン協会の協力を得た、とても楽しい企画だったんですよ。子供たちとのいい出会いが期待できただろうに…と、今でも残念に思います。

木村 ちさとさん

森本　私は、今回のボラフェスは一口にいって、非常に都市型の催しだったと感じています。政令指定都市である大阪市が参画しているということで、馬車に見立てると、行政は府と市の二頭立て。社協も府社協と市社協の二本の柱がある。日赤大阪支部や大阪共同募金さんも、それぞれのブランチとしては全国の都道府県で一・二を争う大きな団体です。それにボラ協さんも30年の歴史のある全国有数の民間ボランティア推進機関ですから。

私ども大阪府の具体的な仕事としては、厚生省や、紀宮様が来られた関係で宮内庁など主に国との連絡・調整にあたり、当日は来賓の受付けを担当しました。大阪府の場合、どうしても立場上「中央との関係」を重視します。一方「企業に近付き過ぎるのはいかがなものか」という考え方もありました。しかしボラ協さんなど、異なる世界の人たちと一緒に仕事をさせていただいて、自分自身、新たな勉強をさせてもらったなと思っています。

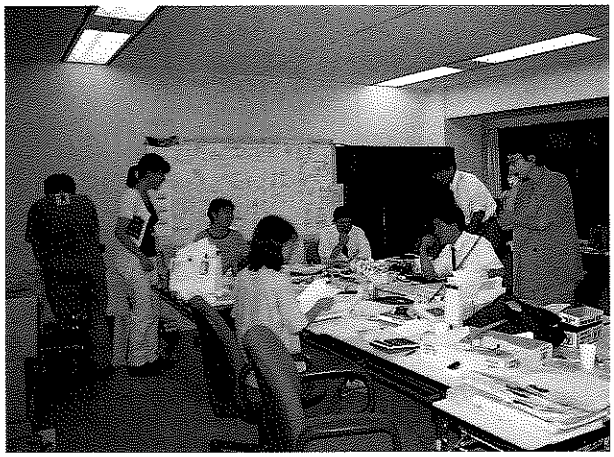
各団体が、それぞれの独自性と機動性をいかんなく発揮

脇坂　大阪市社協では、21日の屋外プラザの他、8つの分科会、それから大阪城ホールで行われた開会式の式典運営にあたりました。準備段階では、組織が異なると、こんなに仕事のしかたが違うのか…と驚いたこともありましたが、いい勉強になったと感謝しています。会場も、あれだけの多彩なメニューの催しをOBP周辺でまとめ、よかったと思いますね。

なお、21日の屋外プラザでは、運営委員の方々が非常に積極的に取り組んでいただき、当初私どもがイメージしていたプログラ

ムを遥かに凌ぐ内容のボリュームとなりました。それだけに中止となったことは大変残念ですが、20日のあの豪雨と、しかも台風の接近という状況下においては、そう決断せざるを得なかったと思います。幹事団体のトップの方々も、断腸の思いで判断されたことだと思います。と同時に、出店をはじめ、さまざまな催しのために準備いただいた皆さんには大変ご迷惑をおかけし、私も一緒に汗を流してきた一人として、非常に悔しい思いでいます。しかし、ここに結集されたパワーはかつてないものですので、今後もさらに連携を保ち、次へのステップにつなげたいと思います。その意味で大きな財産を残せたと評価しています。

脇坂 博史さん


大会現地（OBP）に開設された本部事務局

木村(利)　私は大阪市の職員として市への連絡・調整、オプショナル企画等での市関係機関との連絡・調整などにあたりました。自分自身、振り返ってみて、最初から最後まで取り組みの全体像を把握できずに終わったため、十分に動ききれなかったという気持ちでいっぱいです。しかし今後、政令指定都市を含む都道府県で開催されるときは、市と都道府県がどういうふうに協力関係を結んでいったらよいのか、できる限りアドバイスできたらと思っています。

青木　私は府社協の担当者として、屋内プラザの他、ガイアシンフォニーの上映をはじめとした協賛事業、7つの分科会などを推進してきました。事務局の仕事も部分的にお手伝いし、いろんな企画に顔を突っ込んできたこともあり、このボラフェスを契機に、桂福団治師匠や野澤重雄先生、ロックグループ・シャンテをはじめ、多くの方々と出会い、お話をすることができた。こうしたこともあって、自分自身の満足度はすごく高いんです（笑）。とくに、大会2日目のオプショナル企画として、大阪市の船・帆船「あこがれ」で養護施設の子どもたちを招待したセイルトレーニングが実現したことは「いろんな団体と力を合わせれば、こんなこともできるんだ」と、すごく感動しました。記録係のビデオ班と写真班が、それぞれプロとボランティアで合同のチームをつくって活動したり…、「協働」のすばらしさを実感しました。

田尻　僕は大阪ボラ協から今年4月に出向し、事務局を担当してきました。自分にとっては、この大会は◎と考えているんですが、事務局という立場に限っていえば、軟弱な部分も多かったのでは…と思います。「各団体の独自性と機動性を余すことなく発揮できた」ということは、裏を返せば「事務局が全体をあまりコントロールできなかった」ということでもある（笑）。そのあたりは、いろんな議論が成り立つだろうとは思いますが。

中央と開催府県との役割分担に課題

――小さなことでゴタついたことはあっても、カラーの違う7団体が協力しあい、全体としてはうまくいったというのが皆さん方の評価のようですね。ところで最初の滑り出しの頃、「そもそもボランティアとは…」とか「なぜ大阪でやるのか」といった点について議論百出、といったことはなかったのでしょうか。

山寄　「第5回の全ボラは大阪で」というのが正式に決まったのが昨年の3月。それから会場をおさえ、7者による準備委員会を立ち上げたのが8月下旬…。ということで実質1年しかなかった。そんな中で実務者会議がスタートしたので、もういまからキャンバスを引き摺り下ろして観念的な議論を…という時間的余裕はありませんでしたね。それよりも、そのキャンバスに具体的にどんな絵を描こうか…という思いでみんな集まった。ですから、それぞれのボランティア観を戦わすといったことはあまり

なかったですね。でも「白紙のキャンバスにどんな色を塗るのか」という話ですから、互いにコンセプトを出し合うなかでは、青木が述べたように長い時間を要しました。

田尻　2時間の予定の会議が5時間になったり（笑）。各担当者は「ボラフェス自体をどうしたらいいか」ということと同時に、「自分の団体にどう持って帰るか」ということがありますからね。その点での意見の食い違いがない訳ではなかった。

田尻 佳史さん

青木　でも、各団体がどんな役割を担うのか…が見え始め、柱ごとに運営委員会を設けてからは、各運営委員会が自主的に内容を企画し、グッ！グッ！と取り組みが進んでいった感じがありますね。

脇坂　もともとパワーのある団体ばかりなので、その後は「ブルドーザーで一気に…」といった印象がある。

名賀　ともあれ、ボランティアについては各団体とも長年積み重ねてきた実績と見識をもっているわけですから、今大会を契機に一度、各団体のボランティア観を出し合ってみる場を設けることは必要でしょうね。そこで意見を無理に統一する必要はないが、そんな話し合いの中から、各団体として、あるいは今後の合同事業に備えて、見えてくるものも大きいのではないか、と思います。それが必要なことも、今回、協働で事業をやってみて改めて気づきました。

――田尻さんも述べられましたが、事務局の在り方についての反省点などは…。

木村(利)　私もそうですが、各団体とも、こんなに大きなイベントになるとは思っていなかったのではないでしょうか。時間的な制約、人的な制約等、いろいろ無理な点があったと思います。進め方云々は仕方ないのではないでしょうか。

木村 利雄さん

森本　先ほど脇坂さんが「ブルドーザーで進んでいった」とおっしゃいましたが、7台のブルドーザーが並んで進むと、どうしてもブルドーザー同士の間には整備されない土が小さなヤマとなって残ってしまう。そうした残土をスコップですくい上げるように、7つの団体の自主性を尊重しつつ、うまくそれらをサポートする。そうしたことも事務局本部に求められる役割だと思うのですが、我々もなかなかそこまで頭が回らなかった。突発的事態への準備体制が十分に整っていなかった点は今後の課題と言えるのではないでしょうか。

樋口　屋外プラザが中止であることを、一般の参加者に伝えるインフォメーションがなかったことも、その表われでしょうね。

田尻　それと、事務局を担当していて、厚生省や全社協など、中央と地元の事務局の役割分担をきっちりさせておく必要があることを痛感しました。今年のボラフェスの事務局は、過去の大会とは違って、ディレクターではなく、コーディネーター的な位置付けにあったわけですが、その辺のことがイマイチ中央には分かってもらえなかった。例えば、印刷物などに関しても中央から細かいチェックが入りましたが、基本的に催し全般の責任は「地元が担う」ということを、事前にはっきりさせておくべきだったと思います。まあ、そのあたりは、体裁を気にする関東と、どちらかというとアバウトで実際の内容を重視する関西の、仕事姿勢の違いだと言えなくもありませんが…（笑）。

多くの感動的なシーンに出会えた喜び

――ボラフェスは、ボランティア活動をしている人の交流の場であるとともに、府・市民に対するボランティアの啓発・きっかけづくりという点でも、大きな役割を果たしたと思うんですが…。

森本　ええ。ボラフェスで始めてボランティアを体験した人がいて、大会の後、私どものところに電話がかかってきた。「今度またどこかでボランティアをしたいのだけど、何かないですか」と。来秋開かれる、ふれ愛ぴっく大阪（第33回全国身体障害者スポーツ大会）のボランティアを紹介しましたよ。

座談会　全国ボランティアフェスティバルを振り返って

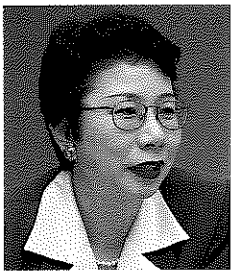
脇坂　私もＦＡＸをいただきました。大阪の車椅子の方がボラフェスで東京から来られた電動車椅子の方と知り合いになり、「たこ焼きが食べたい」と言われたので、おいしい店を紹介してあげたとか。いつもボランティアに助けてもらっているが、自分もボランティア活動ができたと、喜んでおられました。

木村(ち)　共同募金会も、終わってから何件かお電話とお葉書をいただきました。私どもは、〝寄付のボランティア〟ということで分科会をもったのですが、共同募金にとらわれず、広く寄付について考えるいい機会になったみたい。とくに「寄付は社会へのプレゼント」といったメッセージが広く共感を得られたようです。また、「分科会には出られなかったのだが、ぜひ内容を聞きたい」という声もあり、たくさんの方々に興味をもっていただいているのだなと、うれしく思いました。それで…という訳ではないのですが、いま編集中の50周年記念誌には分科会の内容も掲載する予定です。

山嵜　台風接近で中止になりましたが、屋外プラザがあったら、カップルや子供連れなども気軽に参加でき、もっと大きなボランティアへのきっかけづくりになっただろうに…と思います。

名賀　そうですね。でも、屋外プラザのあるなしに関わらず、全般に一般の参加者たちをファシリテート（その気にさせる）する雰囲気づくりは、まだまだ弱かったのでは…と思います。それが、わたしが最初に総括で述べた「大阪のボランティアの人たちとの協力・協働という面では×」という面にもつながっている。参加者がボラフェスに巻き込まれていく中で、巻き込まれつつも各自の思惑をその中で発揮できる――そんな催しにしていくこともこれからの課題でしょうね。コーディネート団体の力量が問われるところです。

青木　そうですね。けれど、ボランティアってすごいなという場面にもいろいろ遭遇しましたよ。例えば「朗読Ｖ」分科会の運営委員会では、ぜひ大阪市内の人と交流したいとか、近畿の朗読ボランティアのアンケート調査をしたり、大変意欲的でした。屋内プラザのステージの司会をした人が感動されたとか、バリアフリー展示コーナーで、「こんなものがあるなんて知らなかった」と車椅子の方がおっしゃったとか、聞いています。


青木 美知子

樋口　私もそんな感動的なシーンを聞きました。私の同僚が開会式の受付けを担当していたんですが、非常に混雑しましてね。その時、見るに見かねて、お手伝いを買って出てくださった方がいらした。まさに、参加者も含めて催しをつくりあげる、そんな場面でした。

脇坂　ともあれ、一つの目標に向かうときのボランティア・パワーはすごいですよ。開催前日の屋外プラザの準備にも150人ぐらいの方にお手伝いいただきましたが、予定よりもずっと早く作業を終えた。「アルバイトを雇って行うより、ずっと効率がいい」と業者の方も驚いておられました。

田尻　会場をお借りしたある企業で、机と椅子の持ち出しを急遽依頼したときもそうでした。「外部の人間が、持ち出したものをきっちり返せるはずがない」と、最初、貸し出しを渋っておられたのですが、使用後、元通りに整然と椅子と机が並んでいるのを見て、「心配しなくてもよかった。皆さんきっちりやって下さいますね」と、ボランティアの人々の姿を見て、改めて感心されていましたよ。

山嵜　いずれにせよ、今回の取り組みは、大阪のボランティア活動の明日を切り開いていくにあたって、大きな財産になったことは確かです。培ったこのネットワークを今後も大いに生かしていきたいですね。

山嵜明彦

――なるほど。今大会を契機に、大阪のボランティア活動がますます活発になっていくことを期待しています。本日は長時間、どうもありがとうございました。

介助ボランティア養成講座
たより上手　たよられ上手
～うちもあんたもボランティア～

障害がある人の自立と社会参加を援助する介助ボランティア養成講座。

日時および講義内容

第1日目　12月4日（水）10時～正午
テーマ　「心のバリアフリー」
講師　松政達雄さん（知的障害者の生活施設「三島の郷」所長）

第2日目　12月10日（火）10時～正午
テーマ　「いつも隣にボランティア」
講師　山田義昭さん（簡易心身障害者通所授産施設「作業所・花の会」代表）
吉原暁子さん（ボランティアグループ「竹の子」代表）

第3日目　12月13日（金）10時～正午
テーマ　「ボランティア体験してみよう」
場所　知的障害者の生活施設「三島の郷」ほか

第4日目　12月17日（火）10時～正午
テーマ　「新発見　私のボランティア活動」～はじめの第一歩～
会場／総合市民交流センター会議室
高槻市紺屋町1－2
☎0726－85－3721
定員／先着30名／無料
申込先／高槻市ボランティアセンター
高槻市紺屋町3－1－303
☎0726－83－2200

シルバーサービス総合フェア　イン　大阪'96

在宅ケアから住まい、健康、生きがいまで、幅広い分野にわたるシルバーサービスの最新メニューを、展示や実演、体験コーナーなどを設けて紹介。シンポジウム、セミナーをはじめ、トークショー、マジックショーなど多彩な文化イベントを同時に開催。

［シルバーサービス展］
日時／12月10日（火）～12日（木）10時～17時
場所／マイドームおおさか（1階・2階展示場）
内容／"エイジレス"や"バリアフリー"をキーコンセプトにした「テーマエリア」、国内外のシルバーサービス企業の製品や活動等を紹介する「企業展示エリア」、来場者参加型のバラエティーに富んだイベントを行う「イベント広場」など

［シルバーサービス・シンポジウム］
日時／12月10日（火）13時～16時
場所／大阪商工会議所　国際会議ホール
定員700名
基調講演「人生は末広がり」
講師：森毅氏（評論家・京都大学名誉教授）
パネルディスカッション
「長寿社会を支えるシルバーサービスの課題と展望～公的介護保険の動向をふまえて～」
パネリスト
江口隆裕氏（厚生省老人保健福祉局老人福祉振興課長）／木村陽子氏（奈良女子大学助教授）／中熊靖氏（㈱アクティブライフ代表取締役常務）／本間正明氏（大阪大学教授）
コーディネーター
濱口公子（大阪府地域福祉推進財団常務理事）

その他、［いきいきシニアライフプラザ］もマイドームおおさか3階で同時開催

問合先／（財）大阪府地域福祉推進財団
☎06－942－5001

若者のはじめてのボランティア活動
～青少年が気軽にボランティアに取り組むために～

日時／12月20日（金）午後1時～2時30分
場所／摂津市総合福祉会館　3階第3会議室（JR千里丘駅より南へ徒歩10分）
講師／朝日新聞大阪厚生文化事業団事務局次長　石田易司氏

主催／摂津市社会福祉協議会
摂津市ボランティア連絡協議会

問合先／摂津市社会福祉協議会
☎06－383－1111

患者会つくろう講座Ⅱ　『ピア・カウンセリングってなあに？』

精神障害者当事者同士が対等な立場で相互支援のために行うピア・カウンセリングの大切さやその方法について学ぶ。

日時／1997年2月8日（土）午後1時30分～4時
場所／アピオ大阪205号室（108名収容）
参加費／会員無料、非会員500円
パネラー／境屋うらら氏（全国自立生活センター協議会、ピア・カウンセラー）／小和瀬芳郎氏（全国精神障害者団体連合会、ピア・カウンセラー）／中谷真一氏（大阪精神障害者連絡会、ピア・カウンセラー）

主催／大阪精神障害者連絡会（ぽちぽちクラブ）
問合先／患者会つくろう講座世話人会
☎06－973－1287

ボランティア募集！

●病院ボランティア

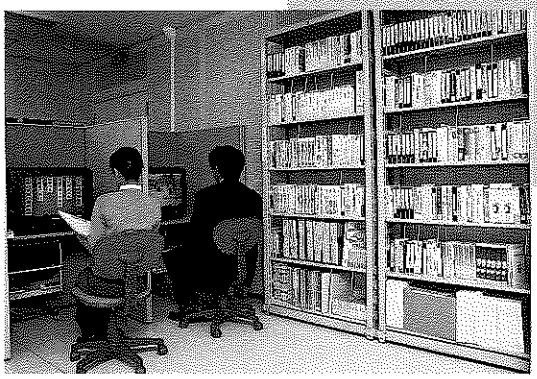
活動内容　病院を訪れた人をやさしく案内する外来受付など
活動日時　月曜～金曜のうち月4回　時間帯：午前9時～11時
活動場所　国立大阪病院（地下鉄谷町線「谷町四丁目」駅下車、徒歩5分）
募集団体名　日本病院ボランティア協会（担当：波多）
〒590堺市高須町3－1－29
TEL　06－849－4544
FAX　0722－38－5215
メッセージ　健康でヤル気と根気のある方をお待ちしています

サポートしますボランティア

装いも新たに、大阪府ボランティアセンターがオープン！！ ～活動の拠点・相談窓口に～

開所式でのテープカット（11月28日）

センターを見学される皆さん（オープンの日）



ビデオライブラリー

図書資料閲覧コーナー

11月28日、大阪府ボランティアセンターが、大阪社会福祉指導センターの３階に、設備を充実させて新装オープンしました。

当センターは、「さまざまなボランティア情報の提供」「府下のボランティアグループの交流」「コーディネーターなどの人材の育成」「テーマ別・分野別研修会」などを実施する大阪のボランティア活動支援の一大拠点です。

設備面でも、打ち合わせや会議などに“無料で”（登録料は必要）使えるスペースを設置するほか、ビデオカメラに編集機、ビデオプロジェクターにスライド映写機、高速ダビング機などの機器を備え、利用できるようになっています。

「何かボランティアをしたいんだけど…」「活動の参加者を募っているんだけど…」という人、あるいは「ボランティアの資料や文献を探している」「他のグループと情報交換を図りたい」と思っている人…。そんな方々はぜひ一度、当センターへ。活動の拠点・相談窓口として、お気軽にご利用下さい。

センターを紹介するリーフレットも完成

大阪市中央区中寺１―１―54　大阪社会福祉指導センター３Ｆ
ＴＥＬ　06-762-9631　ＦＡＸ　06-762-9679
利用時間　午前9時～午後9時（ただし月曜、土曜は午後5時まで）
休　　み　日曜、祝日、第5土曜、年末年始

ボランティアおおさか 第7号
1996年 AUTUMN
発行／(福) 大阪府社会福祉協議会 大阪府ボランティアセンター
〒542 大阪市中央区中寺1丁目1－54 大阪社会福祉指導センター内 06(762)9631

ふれ愛ぴっく・イヤースタート記念
震災とボランティアの日 記念事業

参加無料

おおきにボランティアフェスタ'97

おおきにボランティアコンサート

日時　平成9年1月13日(月)　午後6時30分～9時
場所　大阪厚生年金会館大ホール

- オープニング映像
  「第5回全国ボランティアフェスティバル大阪」
- 社会福祉ボランティア大阪府知事表彰贈呈式
- ふれ愛ぴっく・イヤー宣言

✦トークコンサート

「ボランティアに捧げる
スクリーン・ミュージック」

トーク：浜村　淳(タレント)
　　横山ノック(大阪府知事)
指　揮：藤原陽一郎
演　奏：蓮尾良介＆ゴーストキッズ

主催　おおきにボランティアフェスタ コンサート実行委員会

第33回全国身体障害者スポーツ大会
ふれ愛ぴっく大阪
ときめいて今　はばたいて未来
■会場　長居公園(大阪市)・久宝寺緑地(八尾市)・なみはやドーム(門真市)
■会期　平成9年(1997年)11月2日(日)・3日(祝)

おおきにボランティアセミナー

日時　平成9年1月22日(水)　午後1時～4時
場所　大阪府立青少年会館文化ホール

✦バトルトーク

「恋するようにボランティア」
朝日新聞論説委員　大熊由紀子
大阪ボランティア協会　早瀬　昇

✦パネルトーク

「とっておきのボランティアばなし」
松下電器産業㈱　菊池　健
八　老　劇　団　浜田　澄子
日本NPOセンター　田尻　佳史
コーディネーター　上野谷加代子(桃山学院大学)

- ボランティアアドバイザーバンク登録受付
- 「福祉の本」展示即売

主催　おおきにボランティアフェスタ セミナー実行委員会
社会福祉・医療事業団助成事業

お申込み方法

官製はがきに「おおきにボランティアコンサート」または「おおきにボランティアセミナー」の希望明記の上、郵便番号・住所・氏名・年齢・職業・電話番号・ボランティア活動歴の有無を明記して、右記までお申し込み下さい。

〒542 大阪市中央区中寺1－1－54　大阪府社会福祉協議会・大阪府ボランティアセンター内「おおきにボランティアフェスタ実行委員会事務局」
TEL 06(762)9631　FAX 06(762)9679

しめきりは12月16日(月)(消印有効)です。応募者多数の場合は抽選となります。発表は発送をもってかえさせていただきます。